

文化の伝播

朝鮮半島で稲作文化が出現したところ、中国の青銅剣を石で模倣した磨製石剣が出現しています。この磨製石剣も稲作文化と共に北部九州にもたらされています。さらに朝鮮半島で誕生した細形銅剣などの青銅武器は、弥生時代中期初頭から北部九州の墓に副葬され始めます。

北部九州で最初に青銅器が副葬される甕棺かめの型式を「金海式」といっています。金海式という名称は韓国慶尚南道金海市にある金海貝塚で発見された弥生前期後半の甕棺かめに命名されたもので、多数の青銅器などの副葬品を持っていました。この型式の甕棺が福岡県・佐賀県に分布の中心を持つ形式で、韓国で他に発見例もなく、この時期に朝鮮半島で成人を甕棺に埋葬する風習がないこと。また、多数の青銅器の中に未完成の銅剣を持っていたことから、金海貝塚に埋葬された人物は、青銅器製造の技術など積極的に先端技術を導入しようとする目的で渡航したと考えられています。すなわち、北部九州の甕棺に青銅器を副葬するようになる時期（紀元前2世紀ごろ）に、朝鮮半島南部に青銅器を多量に副葬した倭人の墓が出現しているのです。倭人が積極的に先端技術を求めて進出した証しではないでしょうか。

松浦市では、弥生時代の水田跡はまだ発見されていませんが、人々は低地に水田をつくり、その近くの少し高いところに住居を建てて住んでいたと思われます。志佐町栢ノ木遺跡からは、北部九州との交流を示す金海式の甕棺墓が、御厨町池田遺跡からは磨製石剣などが多数出土していることから、むらの存在がうかがえます。



▶栢ノ木遺跡出土の甕棺（金海式）墓



コラム

ジェシカ先生
(アメリカ出身)

My Goals in Japan 日本での目標

2月5日で、日本に住んでちょうど半年になりました。信じられないほど早く時間が過ぎました。この半年は良い経験をたくさんしました。県内を旅行したり、素晴らしい友達ができたり、日本のことをたくさん学びました。

これからしたいことはまだまだあります。例えば、桜を見たことがないので花見にも行きたいし、韓国にいる友達を訪問したいし、ゴールデンウィークには、タイとマレーシアへの旅行も計画しています。また、日本国内ももっと見たいと思っています。5月には大学時代の友達が松浦に来る予定で、秋には両親にも松浦を見せたいと思っています。

そして最大の目標は、日本語がもっとすらすらと話せるようになって、12月に日本語能力テストを受けることです。

日本での生活は、本当に良い経験となっています。この先も瞬く間に過ぎていくことと思いますが、私を待っている素晴らしい経験を楽しみにしています。



▲一番右がジェシカ先生。市内のALTと一緒に。